



新社長

神鋼鋼板加工 近藤 真一氏

神戸製鋼所に在籍していた34年間のうち、半分近い16年を厚板に

関わってきただけに「厚板に対する思い入れは強い」。国内営業および海外輸出ともに、造船向けを主体とする直需商

6月20日から社長としてかじを取る。建築鉄骨および橋梁需要分野向けは初めての経験であり、溶断工場経営を指揮するのも今回が初めて。受注状況の繁閑の波が非常に大きく、山谷やまたにの差が激しい業界」とい

プラズマ、レーザー能力向上へ積極投資

切板製品を専用装置が先といった二次加工にコンプライアンスに

切板受注構成も、小ロット多品種の異形モノが増えている。こう

「安全」「コンプライアンス」最優先

「安全」と「コンプライアンス」を最優先に

略 歴

近藤 真一氏（こんどう・しんいち）1985年（昭60）北海道大学法学部卒、神戸製鋼所入社。99年厚板営業部厚板室課長、2002年鉄鋼輸出部厚板・熱延グループ長、10年鉄粉営業部副部長兼鉄粉室長、11年鉄粉営業部長、15年鉄粉本部長、19年6月神鋼鋼板加工社長。1961年4月生まれ。